

# Japonism Victoria Archives

A touch of west-coast Japanese culture

www.jccvictoria.ca



Archive No.: HID091002  
English Title: Ross Bay Cemetery and the Nikkei (Japanese Canadian) Community, Part I  
Japanese Title: ロスベイ墓地と日系コミュニティ <Part I>  
Author: Vincent A. The editor-in-chief  
Issue: *Japonism Victoria*, vol.4 no. 2, October 1, 2009  
Publisher: Japanese Canadian Community Organization of Victoria  
Location: www.jccvictoria.ca/archives/hid091002b.pdf

## HISTORY/ART/HUMANS [第2回]

### ◆ロスベイ墓地と日系コミュニティ <Part I>

Vincent A. @Japonism Victoria

ビクトリアの南端、海岸沿いの Dallas Road を Beacon Hill Park から東に向かって車で数分の距離に Ross Bay Cemetery (ロスベイ墓地) があります。正面入り口は Fairfield Road に面していますので住所は 1594 Fairfield Rd. Victoria。このロスベイ墓地は 1873 年に作られたビクトリアで最も有名な公園墓地で、特定の宗教・教会に属さない共同墓地です。

敷地は 1893 年と 1906 年の二度にわたり拡張され、現在の面積は約 11 ヘクタール (27.5 エーカー)。墓地はその名の通り Ross Bay に面した景色が非常に美しい場所にあり、その美しさゆえに創設時には地元コミュニティの人々から、墓地にするには場所が良すぎるとの反対運動もあったそうです。園内は概ねキリスト教各宗派で分けられており、一部に先住民、中国人など人種による区域があります。現在、約 28000 人が埋葬されており、著名人の墓も多く、なかでもカナダ人に人気のある画家・作家のエミリー・カーの墓には毎年、大勢の人が訪れます。

このロスベイ墓地は日系コミュニティとふたつの点で非常に深い縁をもっています。ひとつは、この墓地に日本人の移民先駆者たちが多数眠っているということ。そしてもうひとつは、この日本人たちの墓の現在の有り様(ありよう)にカナダにおける日系の歴史が凝縮されていることです。

今回から数回に分けてロスベイ墓地の日本人埋葬者と日系コミュニティについてお話ししますが、筆者は歴史の専門家でも郷土史研究者でもありません。ロスベイ墓地で毎年催される日本人埋葬者の慰霊祭に参加し、コミュニティの方々からお話をうかがい、関連資料を見るなどして得た知識を筆者なりにまとめたものにすぎません。誤りなどありましたらご教示いただくと幸いです。

まず、ロスベイ墓地に埋葬された日本人たちの特徴を見てみましょう。

#### [埋葬者数]

ロスベイ墓地にはカナダにおける最初の日本人移民とされる永野万蔵の妻つやと、その娘はるの墓をはじめとして多数の日本人移民が眠っています(注1)。ちなみに、万蔵自身は後年、日本に帰国し、日本で没しています。太平洋戦争が起きるまで、ほとんどの日本人移民は BC 州に居住していました。なかでもビクトリアは初期の日本人移民にとってカナダ上陸の地で、日本人のカナダ移住はビクトリアを起点として始まったといえます。日本人移民先駆者が多数この墓地に埋葬されているのはそのためです。

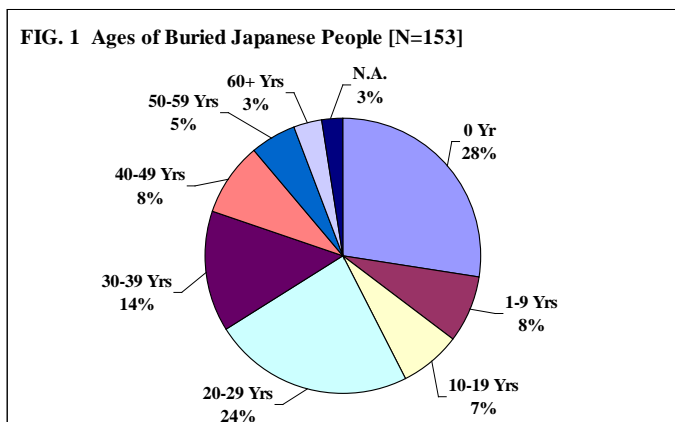
筆者の手元資料では、現在判明しているロスベイ墓地の日本人埋葬者は 161 名(注2)です。このうち太平洋戦争を契機に日本人・日系人の強制収容が行われた 1942 年までの埋葬者数は 153 名。それ以後、1943 年から 1954 年までの 12 年間は日本人・日系人埋葬者はひとりもありません(注3)。

1942年以前の埋葬者153名のなかで18歳以上の者は91名。性別では男性61.5%、女性17.6%、不明20.9%です。この数字からも当時の日系移民社会が男性社会(男性が多い社会)であったことがわかります。

日本人の墓標は多くが木製で、風化、流失、破壊などにより失われ、埋葬当初の墓標としては石製のものがわずかに残るだけです。1980年代から日本人埋葬者の調査が数次にわたり行われ、日本人・日系人有志を中心とする「懸け橋グループ」により墓標が再建されました。懸け橋グループについては後にお話します。

[埋葬者の死亡時年齢]

FIG. 1は1942年までの埋葬者153名の死亡時の年齢と人数割合を示すグラフです。死産を含む0歳児、すなわち誕生日を一度も迎えることなく没した子どもが28%と高い割合を占めています。これに1~9歳を加えると10歳未満の子どもが36%となります。当時のカナダ社会の栄養事情や医療水準、そして移民の経済状態などからすると、授かった子どもを健やかに育てるのが大変難しかったことがこの数字からもわかります。また、概して若年層の死亡割合が高く、労働現場での事故死、過酷労働による病死、あるいは自殺など、青年期・壮年期をまっとうすることすら難しかった移民生活の厳しさが表れています。



[1942年:歴史が停止したとき]

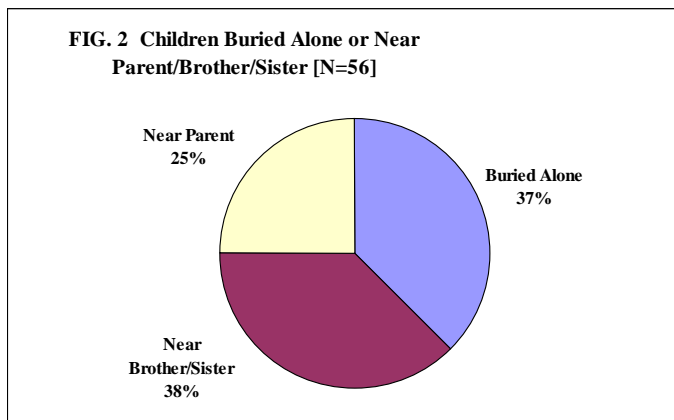
ロスベイ墓地における日本人の墓の最大の特徴は、埋葬者の直系家族はもとより親類縁者にいたるまで、いまでは誰ひとりビクトリアに住んでいないことです。

カナダ政府が行った1942年の強制収容政策(太平洋岸から100マイル以内に居住する日本人・日系人を内陸部の収容所に抑留する政策)と、それに続く拡散政策(収容所に抑留した日本人・日系人をさらに東部へ拡散移住させる政策)は、ビクトリアから日本人を一掃するという意味では完全に成功し、戦後1949年に日本人・日系人がBC州に戻ることを許された後も、誰ひとりビクトリアには戻ってきませんでした。

ロスベイ墓地に埋葬された日本人移民先駆者にとっては、あたかも1942年で歴史が止まったかのようです。そしてこの結果はさらに別の悲劇につながります。先に、埋葬者のなかに子どもが多いことを記しましたが、親たちが強制移住させられた結果、それ以前に幼くして亡くなった日本人の子どもたちはロスベイの墓に取り残されてしまいました。つまり、ロスベイ墓地には子どもだけが孤立して埋葬されている墓が非常に多いのです。

FIG. 2は1942年以前に埋葬された15歳以下の日本人の子ども56名について、親の墓がそばにあるケース、きょうだいと思われる名がそばにあるケース、いずれでもなく子だけ単独で埋葬されているケースをみたものです(注4)。

図のように子どもが親の近くに埋葬されているケースは25%しかありません。残り75%は子どもだけの墓です。



ただ、その半数は同じく幼くして亡くなったきょうだいと共に葬られており、せめてもの救いといえるのかもしれません。

日本では子が幼くして亡くなると先祖代々の墓に、あるいはその隣に墓標を建てて葬ることが一般的です。その光景を見慣れた日本人にとっては、子どもだけが孤立して埋葬された墓が多数並ぶロスベイ墓地の風景は異様に、そしてとても悲しく映ります。

注1: 日本人移民先駆者の墓にまつわるエピソードについてはつぎの文献が詳しいのでそちらを参照ください。“Japanese Pioneers in Victoria”, Gordon & Ann-Lee Switzer (ed), *Stories in Stone*, Fall 2007, The Old Cemeteries Society

注2: この他に、人数など詳細は不明ですが、身寄りのない日本人、中国人、韓国人女性と子どもたちを埋葬したと思われる「Oriental Home」という墓標があります。

注3: 1945年没の1歳の子どもが最近、母親と思われる方と同じ墓に埋葬されましたが、おそらく他の墓地から移設されたものと思われます。

注4: 同一または隣接する区画内で姓が同一で年齢が離れている場合を親子、年齢が幼く近い場合をきょうだいと判断しています。



Copyright:

©2009 Japanese Canadian Community Organization of Victoria

All rights reserved. Reproduction of any part of the article in any form without our written consent will be infringement on our copyright.